

を二萬二千「ヴォルト」と爲して送電容量を倍加せんが爲二萬二千「ヴォルト」用三十萬「サーキュラーミル」三心入被鉛鎧裝電纜を使用し道路面下三四尺の深さに土管又は鐵筋混凝土製「トラフ」中に埋設し田端變電所より五回線永樂町變電所より四回線を施設せり

田端變電所を經由しては鐵道省赤羽發電所の電力或は東京電燈會社猪苗代系統の電力を受くることを得べく永樂町變電所を經由しては同社甲州系統或は信州系統の電力を受くることを得べくかくして受電の杜絶することを防止するに努めたり

第九 主要材料

本工事に使用せる主要材料は砂利、砂、セメント、石材、煉瓦、鐵桁及鐵筋材にして東京神田柳原河岸間に於ては「セメント」鐵桁及鐵筋材のみを支給し他は請負者に於て調達せしめ神田川以北上野驛間に於ては砂利、砂、セメント及鐵桁を支給し他は請負者持とせり而して砂利、砂は生産價格と市價とに非常なる懸隔あるを見、之を直

營採集となすときは本工事の如き大量使用の工事にては莫大の利益となるを以て大正九年四月東京府下南多摩郡多摩川に於て砂利採集場を有する東京砂利鐵道會社の經營せる線路(中央線國分寺驛より分岐し南方多摩川に至る約四哩二分)竝に採掘權を譲り受け「スチームシヨベル」二臺、「ブームドラッグライン」一臺を用いし河原には約六拾鑽の本線路を引込み切込砂利は「スチームシヨベル」を以て直接無蓋貨車に積込み下河原構内には一時間五立坪の篩分洗滌所を設け此に要する砂利の運送には二呎六吋の線路を布設し輕便機關車を用ふる等人力採集と相俟つて専ら本工事を初め東京附近改良工事用砂利、砂の採掘を營みつとあり

今回開通の二線路に對する主要材料の產地又は製造所竝に主なる支給材料を擧ぐれば左の如し

種別	產地又は製造所	支給數量	摘要
煉瓦	本磨煉瓦 日本煉瓦製造會社		
	化粧煉瓦 品川白煉瓦製造會社		
			請負者持

大阪窯業株式會社
佐治製陶合資會社

セメント

日本セメント株式會社
淺野セメント株式會社
大分セメント株式會社
小野田セメント株式會社
土佐セメント株式會社
豐國セメント株式會社

約
八四、一〇〇樽

以上は神田川上野間工
事用を示す
東京神田川間は記録燒
失不明

鐵
桁

材料製造所

八幡製鐵所
川崎造船所
淺野製鋼所
淺野造船製鐵部
三菱製鋼所
住友製鋼所
ダビッド、コルビル、アン
ド、ソンス、リミツテツド
スチール、コムパニー、オプ、スコ
ットランド
シイル、 トン、スチール、アイ
オン、アンド、コール、コムパニー、
リミツテツド

約
一、八二七噸

軌條
切石

製造所
常陸國 稻田
製作
橫川橋梁製作所
川崎造船所
汽車製造株式會社
石川島造船所
米國カーネギー、コムパニー
同 テネシー、コムパニー

約
七六〇噸

請負者持

砂利及砂

相模國 馬入川
武藏國 荒川
同 多摩川
下野國 思川

栗石 七七五 立坪
目潰 七三七 立坪
切込 七八四 立坪
精選 二五二九 立坪
道路用 二二二七 立坪
混泥土用 七〇〇一 立坪
洗砂 三九八三 立坪
並砂 一四二 立坪

神田川上野間工事用の
分を示す
東京神田川間は請負者
持とす

鐵筋材	八幡製鐵所 日本鋼管株式會社 東京鋼管株式會社		
鐵筋混凝土杭	別途製作	長九呎 五三二本 長十二呎 六八〇本 長十三呎六吋 三九八本 長十五呎 九四〇本 長十八呎 五一四本 長二十呎 八六七本 長二十五呎 七十四本 長二十七呎 二八九本 長三十呎 六三六本 長三十五呎 三四本	神田川上野間請負者持 東京神田川間は支給と す 神田川上野間に使用の 概數とす 東京柳原河岸間の分に 對しては記録燒失の爲 不明

第十 建設費概算

工事は將來開通の線路も同時施行せしを以て今回開通の二線路分のみを判然と分離し難きも東京上野間二線建設費概算額は一千二百九十九萬百三十六圓にして其内譯左の如し

用地費	三、〇六四、〇〇〇 ^円
土工費	五三七、八五〇
橋梁費	五、二三六、九六三
溝橋費	二、九二〇
伏樋費	四〇三
軌道費	三七六、五二七
停車場費	一、〇七二、六八八
諸建物費	二五五、九二五
柵垣及境界杭費	二三、九八四